

小さな世界都市を目指す。



豊岡市長 中貝宗治

年

あいさつ

あけましておめでとうございます。
「人生に夢があるのではなく、夢が人生をつくるのです」

全日本女子ソフトボールの監督であった宇津木妙子さんの言葉です。

「山に登るときは周到な計画と組織で登るが、下りるときは気持ちで下りる。必ず生きて帰るといふ強い気持ちがあるかどうかで生死が分かれる」

こちらは、アルピニストで昨年の植村直己冒険受賞者である野口 健さんが、市内中学生との懇談会で述べられた言葉です。

厳しい経済情勢の中で昨年の幕開けとなりました。その苦境に対して、どのような姿勢で臨むのか。たとえどのような状況にあっても、私たちは夢を持ち、笑顔を忘れずにいたいと思います。希望は、確かにあります。

人口規模は小さくても、世界の人々から尊敬され、尊重されるまち―「小さな世界都市」を豊岡は目指しています。

言うまでもなく植村直己さんは豊岡が世界に誇る冒険家であり、但馬牛は世界に通用する但馬の大きな財産です。

山陰海岸は、昨年暮れ、「日本ジオパーク」に認定されました。はるか昔、アジア大陸の東の端が大陸から分かれて南に下がり、日本列島と日本海が誕生しました。そして四季の移り変わりがはっきりした気候風土と豊かな生物層が生まれました。山陰海岸は、その壮大なドラマの痕跡を今に見ることができるジオパーク（地質自然公園）です。ちなみに、地球の表面は何枚

かの大きな岩板でできていて、この岩板が動いているという「プレートテクトニクス理論」（例えば、ヒマラヤ山脈は岩板同士の衝突で地面が盛り上がりつつできた」とされる）の証拠となった「逆転磁場」という現象が世界で初めて発見されたのも、わが玄武洞です。

この山陰海岸を、私たちは次に、「世界ジオパーク」にしようと呼びかけ、関係者を重ねています。

一昨年、東京大学の依頼でドイツのベルリンでコウノトリの取組みを紹介したとき、会場から「今日はとてもハッピーになった」という声が出ました。昨年、韓国で開かれたラムサール条約締結国会議の関連行事で講演した際には、ヒナの巣立ちの映像に涙する人たちがいました。コウノトリがもたらした「命への共感」が国境を越えた瞬間でした。

ここ数年、中国、韓国、モンゴル、イギリス、フランス、ドイツ、オランダ、イスラエルなどさまざまな国の人たちが、コウノトリをめぐる取組みを学ぶために豊岡を訪れています。

2010年、名古屋で開催される生物多様性条約第10回締結国会議（COP10）で豊岡をしっかりとアピールできれば、一挙に表舞台に躍り出ることができるようです。

当面する経済不況に耐え、克服する努力を重ねつつ、一歩ずつ、一歩ずつ、確実に、着実に。願うこと、願い続けること、投げ出さないこと。私の信条です。

豊岡に夢と希望を抱きつつ、今年も共に歩んでいきましょう。

新 年頭のご



豊岡市議会議長 岡谷 邦人

あけましておめでとうございます。皆様には、ご家族おそろいで輝かしい初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、豊岡市では、懸案であった北但広域療育センターをはじめ、城崎の木屋町小路や出石永楽館、さらに但東のたんたん温泉福寿の湯など、地域の伝統文化や歴史、特色を生かした施設が相次いで完成しました。

また、年末には豊岡市新庁舎建設基本構想がまとまり、建設地が現在地に決まりました。具体的な規模、機能などは基本計画、さらに基本設計で明らかになりますが、新市のシンボルとして、まちづくりや中心市街地の活性化に寄与するものと、大きな期待を寄せるものであります。

一方では、市民の皆様に変なご負担をおかけすることになりました。都市計画税の廃止に伴う固定資産税、市民税の超過課税につきましては、市議会において1年近く慎重な審議を重ねてまいりました。本市の厳しい財政状況を考えると、どうしてもその代替財源の確保は必要であるとの結論に至り、市議会として苦渋の選択をいたしました。改めて、市民の皆様のご理解を賜りたいと存じます。

新しい年を迎えましたが、昨年の米国発の金融危機が、わが国の実体経済にも深刻な影響を及ぼしております。特に自動車やデジタル家電産業などの生産縮小に伴う派遣労働者

等の解雇が全国的に広がっており、当地方における雇用の悪化が懸念されます。一日も早い景気回復を心から願うものであります。

また、少子高齢化や過疎化の進行をはじめ、公立病院の医師不足や教育問題、さらに地域の活性化など、早急に取り組まなければならない行政課題が山積しております。

今年は、私たち市議会議員の改選の年でもあります。地方議会の議員定数削減が全国的に進められる中、豊岡市議会においても自ら議員定数の見直しを検討すべきとして、議会改革特別委員会において、広く市民の皆様からご意見を募集するなど、調査・研究を重ねてまいりました。

議員個々の意見が錯綜するなか、定数の根拠に焦点を置き、市民ニーズも十分踏まえて議論した結果、4人減の26人の議員定数で新たなスタートを切ることとなりました。

地方分権の進展により、議会の役割がますます高まっております。当局に対する監視機能の強化と与えられた権能を十二分に発揮するとともに、議会のより一層の活性化を図ってまいりたいと考えています。

市議会といたしましても、市民福祉の向上と感動のあるまちを目指し、心新たに努力、邁進してまいる所存であります。

皆様のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。

感動のあるまちを目指して